

INFORMATION

時間が無い社会人の方にオススメ！ 中小企業診断士30!!

教材フル装備!

情報量そのまま!

60分講義を実現!!

仕事が忙しくて学習時間の確保が難しかった方にオススメのコースです!

従来の講義内容をそのまま1講義60分に凝縮している
ので社会人の方が無理なく1次試験合格を目指せます。
科目別に受講もでき、中小企業経営・政策なら2時間で基礎講義をマスター!

各科目の基礎講義時間

経済学・経済政策	財務・会計	企業経営理論	運営管理
4時間	9時間	5時間	4時間
経営法務	経営情報システム	中小企業経営・政策	トータル講義時間
3時間	3時間	2時間	30時間

アウトプットを中心に学習！ 1次科目別経験者合格コース!!

必要な科目だけ選択して受講できる学習経験者専用の1次試験対策コースになります。
短時間で効率的な学習ができる中小企業診断士30のWebフォローを特別価格で受講できる特典付き!

今から間に合う2次合格法セミナー 8/4(日)～配信開始!

1次試験後からスタートしても間に合う2次試験の合格法をご紹介します!
これから2次試験対策をお考えの方は必見のセミナーです!!

最新情報や講師メッセージを
ツイッターでお届けします!

フォロー
お願いします



⑧ 財務・会計

【総評】

令和元年度の本試験は、問題数は23題（昨年22題）、設問数は25問（昨年25問）であった。昨年度はすべて4肢択一であったが、今年度は5肢択一の問題が1問出題された。

出題内容は会計（財務会計・管理会計等）13問（昨年13問）、財務（ファイナンス）12問（昨年12問）であり、こちらも例年どおり偏りのない出題傾向であった。全体の難易度は標準レベルであるといえる。ただし、前半の会計分野は理論問題が多く対応が難しかったと思われるが、後半の財務の問題では対応しやすかった。したがって、後半で出来るだけ得点を稼ぐことができれば、合格ラインの60点を確保することができたと思われる。

出題のパターンとして、計算を必要とする問題は12問（昨年12問）であり、例年並みであった。このうち、比較的計算しやすい問題で得点を積み重ねられたかが重要となる。特に、第1問、第10問、第11問の設問1及び設問2、第21問は得点していただきたい問題である。これら以外では、第8問（繰延税金資産）、第22問の設問1及び設問2（MM理論）もそれぞれの内容をきちんと把握することができれば、得点が可能であった。

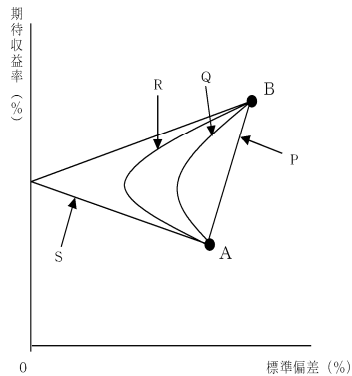
一方、計算を必要としない問題も例年並みの13問（昨年13問）であり、これらの問題については、得点しやすい問題とそうでない問題とをしっかりと区別して、得点できる問題について、いかに短時間で確実に解答できたかが重要となる。特に、第12問、第13問、第17問、第20問、第23問は得点していただきたい問題である。これら以外では、第3問は、非支配株主持分の表示場所が押さえられれば、正解できたと思われる。第19問のROEに関する問題も、落ち着いて考える時間があれば正解できたと思われる。

【的中問題！】 一部ご紹介致します！

大原：直前対策模擬試験①－第18問

第18問

下図のP、Q、R、Sは、証券Aと証券Bについて、相関係数が変化した場合のポートフォリオの期待収益率と標準偏差の関係を示したものである。最も適切なものを下記の解答群から選べ。解答は問24にマークすること。



〔解答群〕

- ア 直線Pは相関係数が-1の場合である。
- イ 折れ線Sは相関係数が0の場合である。
- ウ 曲線Qより曲線Rの方が相関係数が小さい。
- エ 直線Pの場合、証券Aと証券Bはまったく反対方向に動く。

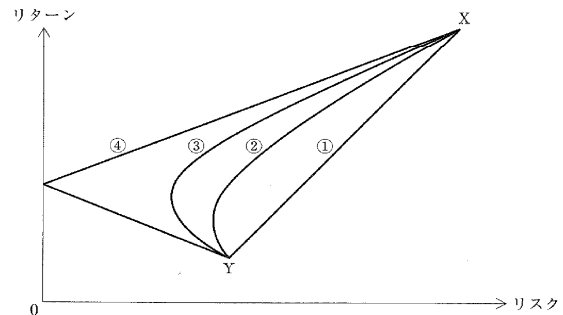
本試験：第17問

第17問

次の文章は、X、Yの2資産から構成されるポートフォリオのリターンとリスクの変化について、説明したものである。空欄A～Dに入る語句の組み合わせとして、最も適切なものを下記の解答群から選べ。

以下の図は、X、Yの2資産から構成されるポートフォリオについて、投資比をさまざまに変化させた場合のポートフォリオのリターンとリスクが描く軌跡を2資産間の が異なる4つの値について求めたものである。

X、Yの が のとき、ポートフォリオのリターンとリスク軌跡は①に示されるように直線となる。 が なるにつれて②、③のようにポートフォリオのリスクをより小さくすることが可能となる。 が のとき、ポートフォリオのリスクをゼロにすることが可となり、④のような軌跡を描く。



〔解答群〕

- | | | | | |
|---|--------|------|-------|------|
| ア | A：相関係数 | B：-1 | C：大きく | D：ゼロ |
| イ | A：相関係数 | B：+1 | C：小さく | D：-1 |
| ウ | A：ベータ値 | B：ゼロ | C：大きく | D：+1 |
| エ | A：ベータ値 | B：+1 | C：小さく | D：-1 |

大原：直前対策模擬試験①－第5問

第5問

D社の損益計算書には「税引前当期純利益200千円」が計上されている。B社の減価償却費計上額が500千円、税法上の減価償却限度額が400千円であるとき、最も適切なものはどれか。なお、法人税等の実効税率は40%とする。解答は問5にマークすること。

- ア 当期純利益は120千円であり、貸借対照表に繰延税金資産を40千円計上する。
- イ 当期純利益は120千円であり、貸借対照表に繰延税金負債を60千円計上する。
- ウ 当期純利益は80千円であり、貸借対照表に繰延税金資産を40千円計上する。
- エ 当期純利益は80千円であり、貸借対照表に繰延税金負債を60千円計上する。

本試験：第8問

第8問

決算に当たり、期首に取得した備品1,200千円(耐用年数4年、残存価額ゼロ)について定額法で減価償却を行った。しかし、この備品の税法上の耐用年数は6年であった。このとき、計上される繰延税金資産または繰延税金負債の金額として、最も適切なものはどれか。なお、法人税等の実効税率は30%とする。また、期首における一時差異はないものとする。

- ア 繰延税金資産：30千円
- イ 繰延税金資産：70千円
- ウ 繰延税金負債：30千円
- エ 繰延税金負債：70千円